



# 生活クラブ風車 夢風 News

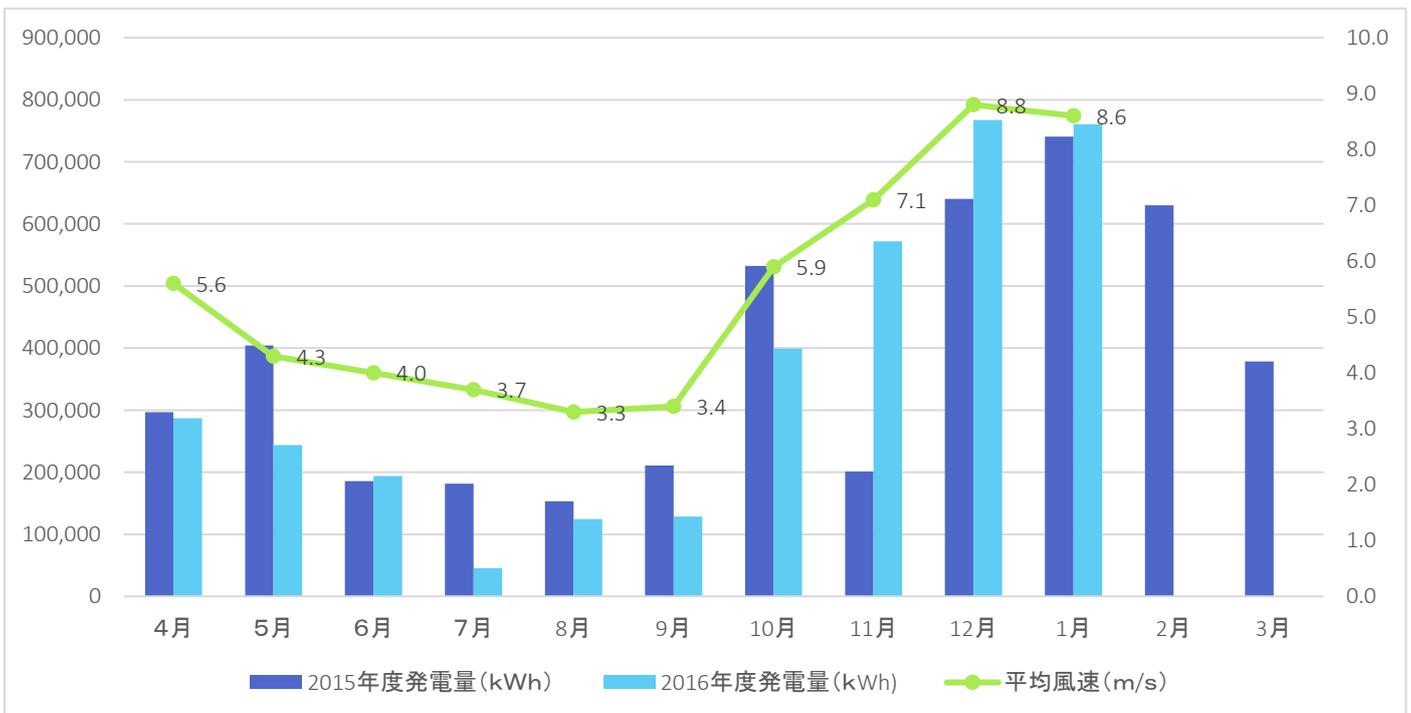


Vol.56

●発行 2017. 2. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田  
●発行責任者 半澤彰浩(代表理事) ●編集責任者 西村明子

## ■2016 年度 発電実績

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	286,904 【96.7%】	5.6	20.0	10月	399,343 【75.0%】	5.9	27.0
5月	243,884 【60.3%】	4.3	16.5	11月	571,908 【284.3%】	7.1	39.9
6月	193,900 【104.3%】	4.0	13.5	12月	767,309 【119.8%】	8.8	51.8
7月	45,130 【24.8%】	3.7	3.1	1月	760,667 【102.7%】	8.6	51.4
8月	124,507 【81.3%】	3.3	8.4	2月			
9月	128,479 【60.9%】	3.4	9.0	3月			



○1月の風況は前年8.1m/sに比べて少し良い状況でした。  
○その他大きな不具合もなく順調に稼働しました。

## ■ 夢風ブランド活動発表会を行いました。 ■

1月28日(土)新横浜のオルタナティブ生活館で、夢風ブランド活動発表会を行いました。まず初めに主催者挨拶を生活クラブ神奈川専務理事の半澤彰浩さんから、来賓あいさつをにかほ市総務部企画課長の佐々木俊哉さんより頂きました。続いて、名古屋大学大学院環境学研究科教授の丸山康司さんが



丸山康司教授

「夢風を通じた生活クラブの取組と経済的波及効果について」と題して基調講演を行いました。基調講演では、次のような点についてお話されました。

- ・東日本大震災後に再生可能エネルギーが大幅に増えてはいるが、その所有者は地元の人ではなく他地域の会社などが多い。
- ・アンケート調査では再生可能エネルギー導入にあたって、「反対はしていないがどちらかと聞かれば反対」という人が多い傾向の中、その事業を支援したくなるような取り組みが重要であること。
- ・生活クラブ風車夢風は、風力発電事業の直接的経済効果だけではなく、夢風ブランドの取組でも経済効果を上げている。また、数字では見えない、コミュニケーションや期待や希望をもたらしており、世界の中でも先駆的な取り組みと評価されている。

講演後は、各単協からそれぞれが取り組んだ夢風ブランドについて、発表しました。



生活クラブ東京の発表 伊藤さん(左端)

伊藤製麺所の伊藤実さんは、今日のような集まりや学習会がある度に、とても刺激があった。出会いがあつてよかった、とおっしゃっていました。

神奈川からは現在開発真っ最中の「はたはたオイル漬け」についての発表がありました。環境平和委員会では、この発表会に1週間前にかほ市の三浦米太郎商店を訪問し、味付けや原材料などについて協議してきました。(詳しい様子は次ページにあります)組合員からはにかほでの協議の様子や、はたはたおいる漬けの工程について報告がありました。三浦さんはじめ、発表するメンバー全員でつけた手作りのはたはたのお面がユニークでした。



三浦米太郎商店 三浦さん 桜井神奈川副理事長

埼玉は「べっぴんさんいちじく」を開発しました。夢風ブランド開発実行委員会より、はじめはドライいちじくなどを検討しましたが開発が難しく、消費材のデビューの時期を見直したりしました。開発にあたって佐藤勘六商店の佐藤玲さんとは直接お会いしたり、スカイプで打ち合わせをしたりして生産方法や材料、チ

ラシのロゴデザインまで、一つひとつ作り上げてきたエピソードが語られました。この日来場できなかった生産者の佐藤玲さんからはビデオメッセージが寄せられました。



千葉単協の鯛しよつるの発表

びかけにつなげて活動できた事などについて発表しました。日南工業の服部さんは、予想以上の注文に全社をあげて製造にあたり、欠品を出すことなく供給出来てよかった、うれしい悲鳴というものを地で行く経験だった、とお話されました。

千葉の環境委員会からは鯛しよつるの開発をするうえで、すでにメーカー側では完成していると思われる商品を、どう生活クラブの消費材として開発していけばよいかと戸惑ったエピソードが語られました。また、夢風ブランドを電気の共同購入の呼



夢風酒について話す  
(株)岡永 立田さん

各単協の発表の後は会場を5階のど

びはねルームに移して試食交流会を行いました。各単協とも工夫あふれるレシピを提案しており、どれも大変おいしいと評判でした。(株)岡永からは今年の夢風酒の試飲用も提供され、担当の立田さんから今年の夢風酒についても報告をいただきました。



べっぴんさんいちじくのレシピ提案。パイやサラダ、シロップの牛乳割りなど豪華メニューです。

生活クラブ風車夢風とにかほ市が結ぶご縁が生んだ夢風ブランドにはひとつひとつに、たくさんの物語が詰まっているのを実感できる発表会でした。

## ■はたはたおいる漬け開発中です。 ■

「冬のかほ市を訪れて」

神奈川・かわさき生活クラブ生協理事 佐野めぐみ

神奈川環境平和委員会、はたはた実行委員メンバーは、三浦米太郎商店の「はたはたおいる漬け」を、夢風ブランド品としての新たな取組みに向けて進めています。その最終調整を行うために、1月下旬、にかほ市を訪れました。「1番風が強い冬に、よく回っている風車を見に来てください！」と、芹田地区のみなさんにも言われていたそうです。やや水っぽい大きな粒の雪が真横からふってくる中、強風を受けて風車は

とても良く回っていました。ハタハタの名前の由来でもある、神奈川では聞いた事の無いような冬の雷が鳴り響き、日本海の冬を満喫できる良い機会となりました。

秋田のこの地域を「ハタハタ」で元気にしようと頑張っている三浦さんと一緒に、秋田県人が築き上げてきた食文化や伝統を「はたはたおいる漬け」の開発を通じて、より多くの組合員に知ってもらい、広げたいと思いました。また今回は、加工現場を見学することで、ハタハタについて色々な知識を得る事も出来ました。小さな魚の小さな硬い骨を一つ一つ丁寧に手で取り除くのは、本当に骨が折れる作業だと思いました。



三浦さん

桜井副理事長

佐野さん

和食だけでなく洋食にも合うように、また常温でも保存でき、若い人や女性にも食べてもらえるようにと、三浦さんは「はたはたおいる漬け」を7年かけて開発しました。賞も受賞している完成度の高い製品です。しかし今回私たちは「味にパンチがかけるので、塩分調整をして欲しい。NON-GMの生活クラブの油に変更して欲しい」と要望し、試作品を作ってくださいました。試食の結果、塩加減ではなく、生活クラブの消費材のなたね油・オリーブ油に替えたことが味の決め手、おいしさにつながりました。

三浦さんからも「味と油にもこだわってきたが、NON-GMの油の入手は困難だった、生活クラブと夢風ブランドを開発していく過程でよりおいしく、安全なものが出来上がり、納得できる製品が完成した」と言って頂くことができ、一緒に開発した醍醐味を味わうこともできました。

組合員に公募したラベルが貼られ、消費材としてデビューし、皆さんに食べてもらえる日が待ち遠しいです。

## ■暮らしの手帳で生活クラブ風車夢風が紹介されました。■

暮らしの手帳86号で、電気の特集記事が掲載され、その中に(株)生活クラブエナジーも取り上げられました。記事では、特徴のある新電力会社が紹介されています。生活クラブエナジーの記事では、半分以上が風車夢風とそれに伴うにかほ市との地域間連携について書かれています。

暮らしの手帳社の取材は人形町の事務所で半澤彰浩生活クラブエナジー代表取締役(生活クラブ神奈川



専務理事)が受けました。半澤代表は掲載された記事を読んで、「取材時に夢風について話したのは、ほんの少しだけだったので、その部分が中心に取り上げられており意外に思いました。雑誌記者からも夢風の取組みが特徴的で面白いと思われたのかとも思います。」と感想を述べていました。

特集記事は、とても分かりやすくまとまっています。電力自由化についてまだよくわからないという人にはお勧めの記事です。サステイナブル(持続可能)な社会づくりを実現するためにおおぜいの人に自然エネルギーを選んでほしいですね。